

不変の色

o8 The Color Of Eternalness

モノの背後に目に見えるもの以上の意味や価値を感じ取った私達の祖先は、他方では「黒」を生活に取り込む事でモノに意味付けをしたり、黒を身につけることで自分達の意志を表したりしてきました。現在に至るまでに黒という色には様々な解釈が存在しましたが、なかでも「黒」は他の色に染まる事がない事から「不変」の色として多く扱われてきました。

例えば仏教の僧侶の日常の衣は、墨染といわれる黒い色の僧衣です。自らが神や仏の聖旨にもとづいて修行を積み色俗を超越した高い資格に到達するための戒めをつつむ色で、黒は世俗の色を通さない皮膚の役目をはたしています。また江戸時代に女性がしていたお歯黒も、戦国時代の武士が自分の主君に忠誠を誓い、「二君に仕えず」という意志を表明するためにしていたものが、後の時代になって再び広まったものだと言われています。

このような「不変」にまつわる「黒」の解釈は世界的に広く一般的なもので、そのため現代においても根強く残っています。今でも裁判官が着る法衣には「何ものにも染まらない」という意味から絶対的な公正を象徴するものとして黒が用いられています。